

コーチング解体新書

～やる気を引き出す源泉を探る～
その36 その人を知ったつもりにならないで



猪俣 恭子
中央大学文学部卒
卒業後足利銀行に7年間勤務。窓口業務を経て、人事部研修グループで行内研修の企画・運営および講師を担当。退職後は家業の印刷会社に従事。2004年からはコーチングを用いた社内の人材育成を手掛け、「良質なコミュニケーションが実現されている現場こそがビジネスの成功をうむ」と実感し、2006年 Coaching Press 株式会社を設立、代表取締役として現在に至る。
国際コーチ連盟プロフェッショナル認定コーチ
財生涯学習開発財団認定マスターコーチ
コーチ21CTPクラスコーチ
米国CCE,Inc.認定 GCDF-Japan キャリアカウンセラー

先日、ある勉強会でご一緒しているAさんと食事をしました。

Aさんは会社でマネジャー職についていて、きりっとした、まさにキャリアウーマンという感じのかっこいい女性です。さて、その勉強会は電話会議でしていますから、Aさんとは声だけのやりとりでした。月に二回ほどの勉強会ですが、話している内容はとても密度が濃く、その期間の中で、私は結構Aさんのことを知ったつもりになっていました。

しかし、はじめて顔をあわせて話をしてみると、でてくること、でてくること、「えーっ、Aさんってそういう人だったの!」ということが。

たとえば、

えーっ、そんな部活動していたの!

えーっ、「嵐」のファンなの!

えーっ、もうすぐ結婚するの!

えーっ、転職考えているの!

えーっ、そういう夢、もってるんだ!

もう『!』のオンパレードです。Aさんの内側にはたくさんの魅力が潜んでいて、それらが気づいてよ、といわんばかりに輝いていました。

私、今までAさんにレッテル貼りしていたわ。Aさんは「仕事中心のきっちりした人」だって。しかもしっかり「のり付け」していました。

はたと周囲を見わたしてみると、私たちって、結構、身近な人にこの「レッテル貼り」をしていますか?

「この人は気がきかない。」

「この人はどうせ人の話を聴かない。」

「また間違いにきまっている。」

「この仕事は彼(彼女)には難しすぎる。どうせできないだろう。」

「まったく、この人は集中力がないんだよなあ。」などなど。

このように私たちの心の声はすごいスピードで話しています。それはもう無意識レベルですか

ら、ちょっとやそつとでこのおしゃべりをとめることはできません。

さて、会社員だった頃、こんな場面にあいました。

若手社員のBさんは異動してきたばかり。はじめて担当する仕事にかなり面食らっていて、うっかりミスが何回か続いていました。といっても、それはBさんの能力が問題なのではなく、慣れていないだけ。仕事の段取りを確認しあい、同じミスをしないための対応策を二人で話し合う時間をとっていくにつれ、沈みがちだったBさんの表情も次第に晴れてきました。

「話を聴いてくださってありがとうございます!」

と晴れ晴れとした声で私に話しかけた、まさにその直後です。営業から戻ってきた上司がデスクに鞆を置くやいなや、「まったくBはなあ、注意力散漫なんだよ。だめだなあ。」と言い放ったのでした。再びうなだれるBさん…。私も状況をちゃんと上司に伝えればよかったのですが、当時の私は、その上司の言葉をのみこむしかできなかったのです。

昨年、数年ぶりにBさんに再会することがあって、その時のことを思い切って尋ねてみると、「あれは悔しかったなあ。決めつけられて。あの上司も決して悪い人じゃないんだけど、人のやる気をなくすことにかけては長けていたよ。だから、俺は絶対部下にはああいう態度はとらなかつたけどね。」と。

相手への評価、それを「レッテル貼り」しないで、せめてポストイットにかえてみましょう! 「あの人はこういう人」と、相手をすべて知ったつもりになっているところから、自分を解放してみましょう!

人はおのずとそういう姿勢をもっている人に、安心感をおぼえ、その人のもとで存分に能力を発揮していくのだと思います。



コーチングプレス株式会社

〒336-0021 埼玉県さいたま市南区別所6-17-17-310 電話 048-863-8914 FAX 020-4665-3162

<http://www.coaching-press.com/> (「コーチング解体新書」バックナンバーも掲載中!!)